

## 地域協働による「にいま子育てカレッジ」の概要と設立過程

—大学内子育て支援拠点・新見モデルの発信—

片山 啓子<sup>1)</sup>\*・三好 年江<sup>1)</sup>・芦田 英厚<sup>2)</sup>

1) 幼児教育学科 2) 岡山県備中県民局健康福祉部福祉振興課 子育て支援班

(2009年2月4日受理)

大学、行政、地域の子育て支援関係者および機関が連携して運営する「にいま子育てカレッジ」は、岡山県備中県民局が提唱・推進する「子育てカレッジ」構想に賛同して設立された、地域協働による大学内子育て支援拠点である。本稿は、地域の子育て支援力の充実と質的向上を図ることを目的に設立した、「にいま子育てカレッジ」が運営する6事業の概要と現在までの実施状況、およびその設立・運営過程を報告するものである。今後さらに、他地域への「子育てカレッジ」の普及に努めると共に、大学内子育て支援拠点「にいま子育てカレッジ」を、地域子育て支援の新見モデルとして、岡山県内はもとより全国へ発信することを目指していきたい。

(キーワード) 地域協働、子育て支援、にいま子育てカレッジ

### I. はじめに

2008年4月、新見公立短期大学キャンパス内に、本学設置自治体である新見市により、図書館・プレイルーム・研修室・相談室・授乳室・多目的ホール等市民と大学との交流の場を備えた「新見市学術交流センター」が新設された。これを機に、館内に親子交流ひろばの運営等6事業の拠点となる「にいま子育てカレッジ」を開設した。大学が独自に運営する子育て支援施設は増えつつあるが、本学においては単独での運営ではなく、地域協働、つまり企画・協議・運営等を大学と行政と地域の子育て支援者たちが実質的に手を携えて行なっている大学内子育て支援拠点であることが大きな特徴である。

この「にいま子育てカレッジ」は、岡山県備中県民局(健康福祉部福祉振興課子育て支援班)の提唱に応じた、新見公立短期大学、新見市(社会福祉課・健康づくり課・学校教育課・生涯学習課)、新見保健所、新見市内の子育て支援拠点である、社会福祉協議会、幼児クラブ交流事業実行委員会、子どもセンター協議会、保育協議会、主任児童委員連絡協議会、愛育委員会、栄養改善協議会、商工会議所、つどいの広場、子育て支援センターの各機関代表者が、オープンまでに9回の協働ミーティングを経て設立し、にいま子育てカレッジ運営協議会が推進・実行しているものである。

本稿は、協働ミーティングにより作成した「にいま子

育てカレッジ」6事業の内容・目的等と併せて、現在までの実施状況の概略について報告するものである。

### II. 岡山県備中県民局が提唱・推進する「子育てカレッジ」概要

「にいま子育てカレッジ」を開設するにあたり、備中県民局が提唱・推進する「子育てカレッジ」と名付けた、地域ぐるみの大学内子育て支援拠点の概要を、先ず考え方の基盤とした。以下に示すのが、備中県民局により提示された「子育てカレッジ」の概要である。

- 地域の重要な社会資源である大学内に子育て支援拠点を設置し、地域ぐるみで拠点の運営を行い、拠点サービス利用を行う。
- 大学内拠点設置により、大学の子育て支援主体としての参加を促し、もって、大学の持つ子育て支援に関する専門知識等の地域還元、新たな子育て親子の交流の場提供等、地域の子育て支援機能の充実を図る。
- また、多様な子育て支援機能の拠点になることにより、その連携促進・育成を目指す。
- さらに、先進事例として、事業スキームなどの県内他地域等への提供を行う。

\*連絡先：片山啓子 幼児教育学科 新見公立短期大学 718-8585 新見市西方1263-2

### Ⅲ.「にいみ子育てカレッジ」6事業の内容

#### 1. 子育て中の親子交流・活動モデル

(子育て中の親子交流広場等実施－ひろば“にこたん”の開設など)

##### 事業内容(目的)

子育て中の親子の見守り方等に関する専門知識を活用し、親子がゆっくり安心して過ごすことのできる交流の場を設置するとともに、学生も参加する、専門知識に基づいた定期的な親子活動指導を行う。

その場に、地域の子育て中の親子や幼児クラブ関係者が参加することにより、地域の交流・活動事業の質的な向上を図る。

##### 実施状況

親子交流ひろばとして、学术交流センター3階の研修室を改装し、既成のプレイルーム・授乳室・相談室とを合わせて使用している。公募により、愛称を“にこたん”と名付け、専任保育士3名と子育てカレッジ事務職員(コーディネーター)1名とが常駐し、ノンプログラム・見守りの姿勢を基本にしているが、親子が主体となり学生も参加する活動やスタッフの企画する行事(「キャンパスのお散歩」「リズム遊び1・2・3」「芋ほり・焼いも」等)も随時行なっている。原則として週2回金・土曜日に開き、08年12月末現在、延べ開設日数72日、登録者数381名、延べ利用者数が3851名となっている。

#### 2. 子育て支援者に対する専門研修

##### 事業内容(目的)

保育士・幼稚園教諭・子育てボランティアなど地域の子育て支援関係者(以下、「子育て支援者」)が現場における課題等を取りまとめ、大学教員等がその課題などに対し、専門知識に基づいた研修を実施することにより、子育て支援者それぞれが役割の認識を深め、地域全体の子育て支援力の向上を図る。

##### 実施状況

08年度前期は、表現技術・身体表現・音楽・造形表現・心理・教育・環境の7領域、各3～15コマ、延べ45日間の研修を実施し、延べ108名が受講した。

#### 3. 子育て情報発信

##### 事業内容(目的)

子育てカレッジHPを設置し、地域の子育て情報等をきめ細かくリアルタイムに発信することにより、地域の子育て支援策等の普及推進を図る。

##### 実施状況

「にいみ子育てカレッジ」HP(<http://www.niimicac.jp/> 新見公立短期大学HPからリンク)を設置し、ひろばの利用状況や地域の子育て情報をリアルタイムに発信している。その他、「にいみ子育てカレッジだより」の発行、岡山の子育て情報誌「ファンダクラブ2008冬号」

巻頭特集の掲載、岡山県立大学(岡山県総社市)で開催された備中県民局主催の「子育てカレッジシンポジウム」における、ひろば“にこたん”の移動開設やパネルディスカッションへのパネリスト参加、また、地域の新聞・テレビ等の取材記事・番組放映等々、様々なメディアを通して随時発信中である。

#### 4. 将来の子育て支援者(学生)育成支援

##### 事業内容(目的)

学生に対して、子育ての実情、子育て支援の現場や支援に向けての取組の状況を伝えると共に、子育てカレッジで行う親子の交流・活動に学生が参加することにより、将来の子育て支援者の育成を支援する。

##### 実施状況

今のところ、にいみ子育てカレッジ運営協議会委員が、学生に対する講話を行っている。実施した講話内容は次の通りである。

○子育て中の母親による経験談 ○仕事を持つ母親による仕事と家庭の両立 ○現役保育士による保育所における子育て支援 ○主任児童委員による子育て相談から見る課題

#### 5. 子育てボランティア等 連携・育成

##### 事業内容(目的)

地域で活動している子育てボランティア等の情報交換、連携の場を作ることにより、子育てボランティア等の子育て支援の質向上、ネットワーク化を図る。

##### 実施状況

現在までの取組としては岡山県笠岡市・総社市において、NPO法人として活動している代表者2名をゲストに、「子育て支援座談会」を開催し、地域の16団体40名が参加して活発な討論が行なわれた。また、新見市社会福祉協議会による親も含めた子育て支援者や学生も参加しての「子育て支援マップ」も作成中である。

#### 6. 専門的な子育て相談

##### 事業内容(目的)

地域では解決困難な子育てに関する問題について、地域のネットワークを活かし、大学教員等が専門知識に基づいて解決に向け一緒に考え、アドバイスを行うことにより、問題を抱える家庭等の負担感の軽減・子育て力の育成、地域の対応力の向上を図る。

##### 実施状況

現在まで、特に解決困難な問題は寄せられておらず、専任保育士が一般的な子育て相談に応じている。地域のネットワークを活かした、保健所等他機関との連携について、現在、検討・準備中である。

### Ⅳ. 時系列による設立準備から開設・運営等の過程

2007年10月から、新見市内の子育て支援機関代表者が

## 地域協働による「にいま子育てカレッジ」の概要と設立過程

参集して、設立準備のための協働ミーティングを始め、備中県民局作成の「子育てカレッジ」概要に基づいて、「にいま子育てカレッジ」の事業内容（目的）等を、協議の上、作成した。

下記は、その設立準備期間から開設・運営等における実施事業の日程と内容を、時系列に示したものである。

### 1. 2007年度の経過内容

#### (1) 地域ぐるみの大学内子育て支援拠点（「子育てカレッジ」）原案検討・作成

○岡山県備中県民局 部内検討（健康福祉部） ○大学への意見聴取（新見公立短期大学 他） ～10月

#### (2) 地域における協働ミーティング・「子育てカレッジの実現」開催

場所：新見市学術交流センター研修室

第1回	10月30日	第6回	1月29日
第2回	11月17日	（「にいま子育てカレッジ」実施概要 決定）	
第3回	12月7日	第7回	2月26日
第4回	12月21日	第8回	3月10日
第5回	1月18日	第9回	3月24日

#### (3) 新見市における「にいま子育てカレッジ」設置についてのプレス発表

2月19日

新聞報道：山陽・読売・産経・備北新聞、備北民報

#### (4) 「にいま子育てカレッジ運営協議会」立ち上げ

3月24日

協議会長：新見公立短期大学 学長 難波正義

副会長：新見公立短期大学 幼児教育学科長・教授 安達雅彦

運営委員長：新見公立短期大学 広報部長・幼児教育学科教授 片山啓子

事務局：新見公立短期大学内（事務局長：片山啓子）

### 2. 2008年度の経過内容

#### (1) 「にいま子育てカレッジ」オープン

4月6日（「新見市学術交流センター」と同日）

新聞報道：山陽・読売・備北新聞、備北民報

ラジオ報道：山陽放送

テレビ報道：テレビせとうち（せとうちLIFE&ビズ「未来ネット」）

#### (2) 地域における協働ミーティング

（07年度から引き続き） 場所：新見市学術交流センター研修室

第10回	4月21日	第13回	7月28日
第11回	5月22日	第14回	9月29日
第12回	6月24日		

#### (3) 研修・視察・見学 等

5月17～18日 日本保育学会：第61回大会（名古屋市）教員・専任保育士・事務局・コーディネーター・県民局職員派遣、大学内子育て支援事業等の実施状況

### 全国把握

5月23日 東横学園女子短期大学：ひろば「ぴっぴ」（東京新宿区）教員・専任保育士・県民局職員派遣、先進大学・施設の視察・見学・研修

5月30日 先進ひろば：「くるみの森」（備前市）教員・専任保育士・県民局職員派遣、先進施設の視察・見学・研修

6月16～17日 大学の子育て支援拠点：昭和女子大学（東京）、神戸大学・神戸市役所（神戸市）教員・事務局コーディネーター・県民局職員派遣、先進大学等の子育て支援事業の視察・見学・研修

#### (4) 「にいま子育てカレッジ」オープン記念講演開催

6月28日 講演テーマ：「食育ってなあに？」

講師：福岡県立大学 小松啓子教授

場所：新見市学術交流センター交流ホール

参加者：約100名

共催：新見市幼児クラブ交流事業実行委員会

協賛：新見市栄養改善協議会

新聞報道：山陽新聞・備北民報

テレビ報道：KSB（スーパーJチャンネル）、NHK（ニュースコア岡山6「報道室便り」）オープン3か月後の状況として報道）

#### (5) 「子育て支援座談会」開催

8月8日 テーマ：「新見のみんなで取り組む子育て支援 ～地域で繋がることの意味～」

ゲスト：NPO法人子ども劇場笠岡センター・宇野均恵 理事長、NPO法人保育サポート「あい・あい」中島久美子 理事長

場所：新見市学術交流センター交流ホール・研修室

参加者：約40名

主催：岡山県備中県民局 共催：にいま子育てカレッジ運営協議会

#### (6) 県政広報企画番組等

OHK「ももっちのおかやま元気レポート」（8月21日放送）

ファンダクラブ2008秋号「岡山県からのお知らせ」  
ファンダクラブ2008冬号・巻頭特集4ページ「大学で子育て?!」

#### (7) 山陽新聞特集記事

12月12日 「新見公立短期大学 支援施設が好評 ～大学・短大が子育てサポート～」

#### (8) 「子育てカレッジシンポジウム」開催

12月13日 テーマ：「子育てカレッジの求めるもの」～子育て支援に関するより良い大学と地域・行政の協働のあり方・可能性について～ 内容：パネルディスカッション、模擬親子学生交流ひろば（「にこたん」移動開設） 場所：岡山県立大学（総社市）

12月22日 新聞報道：山陽新聞（シンポジウム特集

記事)

(8) 地域活性化事例集 (平成20年度版掲載予定)

「大学等との連携による地域の活性化」(財)地域活性化センター (総務省関連法人) 作成

## V. おわりに

タイトルが示す通り“地域協働”は、先ず点在していた子育て支援者や機関を結び付け、互いの心の繋がりや信頼感の深まりに大きく寄与しているという実感が強い。例えば、子育てカレッジ関係の行事開催にあたっても、各機関を通じて一挙に連絡や広報が可能となり、単独の開催に比べて参加者等の動員がより大きくなる。また、各機関による単独開催の場合でも、後援等の協力体制が出来上がりつつあり、非常に心強さを感じている。

この体験を活かし、本事業の更なる充実と波及効果を高め、「子育てカレッジ」新見モデルを地域から県内から近隣県そして全国へと、子育て支援の基盤作りと発展を目指して活動を進めて行きたい。